

つばぜり合い続く。対話すれば「反対」に

オルグ会議 「100 万人対話、50 万反対票」やり抜こう

大阪住民投票（11 月 1 日投票）で全国や近畿から支援に入っている人たちの会議が 23 日に行われ、中央選対局からの情勢、論戦の特徴、終盤に向けた活動についての報告を受け、活動を交流しました。

●**情勢の特徴** 「都」構想に「賛成」「反対」が拮抗。一進一退のつばぜり合いが続き、終盤を迎えようとしている。特徴は、維新と行政一体の物量作戦展開のなか、多くの市民が考えて悩みながら態度を決めている。「賛成」でも対話になれば「反対」に変わる。

●**論戦の特徴と3つの焦点** ①大阪市の廃止か、それとも 130 年の歴史を持つ大阪市の存続か②財源・権限を奪われた中で住民サービスを切り捨てるか、大阪市の力を生かし、拡充か③コロナ禍でもなおカシノ、インバウンド頼みを続けるのか、命と福祉、暮らし第一に転換するのか

●**「100 万人対話、50 万反対票」の確認の成功がカギ** 「持てる力」の総発揮が決定的一政治論議の重視を大阪のたたかいに敬意 討論では、激しいせめぎあいの情勢が語られ、「しらみつぶしの訪問活動をやっているが、大阪市がなくなることが理解されれば反対になる」などの確信や、「新有権者になる高校生への働き掛けを」「夕方 5 時からだけの宣伝でなく 5 時、6 時、7 時も」など活動強化の決意が語られました。「大阪の皆さんのたたかいに敬意を表する」との発言もありました。



活動交流

担い手を広げようと会員訪問 城北地区・旭民商支部

渡司考一城北地区委員長は、民商事務局で働く Nさんと担い手づくりを兼ねて 30 軒ほど会員訪問をしました。「訪問すれば会員は、聞きたいことがいっぱいあるというのが特徴で、しっかり話をする必要があると痛感した」と訪問後に Nさんと確認。話のなかでは、「市を 4 分割すると公務員を増やさんとやっていけないんですよ」というと「そらアカンわ」との反応も出され、資料袋を受け取り「がんばるわ」と励ましの声が寄せられました。（城北地区ニュースより）

「僕にも訴えさせて」24 歳が飛び入り。まち角でも担い手増やし

19 日、港区朝潮橋駅での毎日宣伝で、24 歳の男性が「僕にも訴えさせて」と飛び入りでマイクを握って、「住所が変わるのが嫌だ」と自らの思いを訴えました。

西区阿波座駅でも「丸わかりパンフ 5 枚セット」を 30 人に預けるなど、引き続き街角でも「担い手」増やしに心がけています。なかには 200 枚を持ち帰り、マンションに配るといった人もいました。（西港浪速地区ニュースより）

近畿からの電話が威力 もっと電話！急ごう電話！

京都の電話対話

●前回は、橋下さんの言うこともそうかなと思って賛成したが、子どもができてみると、子育て支援が貧困で困っている。この上、大阪市がなくなればサービス低下でもっと大変になる（乙訓）

●どんなふうに変わっていくのかわからない。吉村さん、頑張ってるし迷っている。

●うちは学会や。なんで大阪市をつぶす必要があるのか。昨日、今日できた大阪やない。「二重行政」言うなら、きちんと市民に説明すべきだ（左京）

●どちらともわからないという人が増えたように思います。「うちは全員反対や」という人でも、まわりに広げているという人はいなかった（左京）

20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 57(2020.10.23)